

GPN Column

グリーン購入ネットワーク コラム Vol.7

グリーン購入の推進

—消費と生産を結び付ける地方公共団体への期待—

平尾 雅彦

(GPNアドバイザー/東京大学 教授)

1. はじめに

2015年に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」は、人 (People)・豊かさ (Prosperity)・地球 (Planet)・平和 (Peace)・パートナーシップ (Partnership) という P を頭文字とする 5 つの基本的なキーワードの下に持続可能な社会を実現するための 17 の目標、いわゆる持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) を示した。この目標の達成のためには、先進国や開発途上国といった区別なく、すべての組織や個人の取り組みが求められ、また、誰ひとり取り残さないという強い意志も示されている。その根底に流れている思想は、物質的・経済的豊かさを追求したままの持続可能性ではなく、人と社会のウェルビーイング (心身ともに健やかで安心と幸せが満たされている状態) を達成すべき目標として

いることである。この SDGs の 12 番目の目標は、持続可能な消費と生産パターンの確保である。消費と生産は経済社会そのものであり、そのあり方が、他の 16 の目標すべてを包含した意味で持続可能なパターンであることを目標にしている。図 1 に示すように、SDGs アイコンの日本版では「つくる責任、つかう責任」となっており、「消費」と「生産」が別々に行動すればよいような誤ったイメージを与えているが、「消費と生産」は不可分である。図 2 のようなサプライチェーンを考えれば分かるように、すべてのステークホルダーが消費 (調達) と生産する立場にある。循環型社会の中では、消費者であっても、再利用可能製品や再生資源の生産者である。この

ような消費と生産の連携を「グリーン購入」で結び付け、グリーン経済で発展を目指すことが目標 12 の達成への道であり、GPN が目指してきたことでもある。

GPN は、1996 年の設立以来、グリーン購入に率先して取り組む企業、地方公共団体、民間団体を会員としてきた。

持続可能な消費と生産パターン
≠ (つくる責任) + (つかう責任)
= (つかう) × (つくる) で共創



図1 持続可能なパターンは消費と生産が共に創る

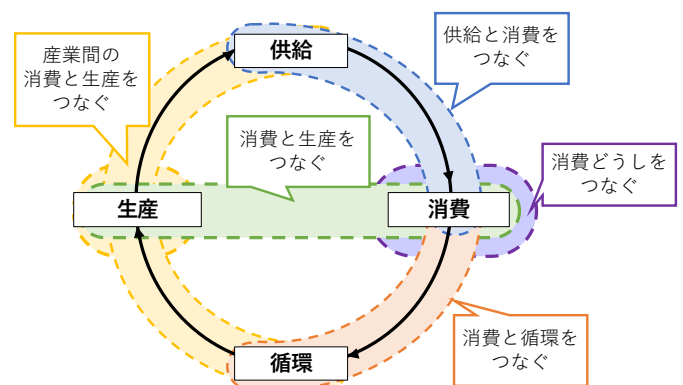


図2 グリーン購入は消費と生産をつなぐ活動

[続きはGPN会員専用ページからご覧いただけます。](#)